

GROWTH

後援会通信「グロース」秋号 2004 Vol.5
—大学と家庭をむすぶ— Linking the University with Families October

微風に揺れる木々の葉も徐々に色づき始め、秋の深まりを感じさせる時節となりました。このたび、年2回発行の後援会通信「GROWTH(グロース)」の秋号が完成いたしました。東北学院大学後援会の会員の皆さまにお届けできますことを感謝しております。5月の後援会総会、7月から9月の地区後援会も無事に終え、学生が円滑に勉学や課外活動に励むための支援も滞りなく進んでおります。今後も大学と家庭の架け橋となるような誌面となることを願っております。



GROWTH(グロース)の意味は、「成長する」です。聖書には、「どんな種より小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。」(マタイによる福音書13章32節)、また、「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」(コリントの信徒への手紙一3章6節)と記されています。東北学院大学の学生の皆さんが各分野において、知識や技術、教養を十分に修め、神と人に祝されつつ大きく成長するようにという期待が本誌に込められています。

CONTENTS

後援会会長挨拶	①
学長挨拶	②
平成16年度後援会総会報告	③
平成15年度後援会収支決算書	④
平成16年度後援会収支予算書	⑤
平成16年度後援会事業報告・予定	⑥
後援会会員からのご意見	⑦
キャンパス・ニュース	⑧
キャンパス・スケッチ	⑨
キャンパス・ボイス	⑩
学務部より	⑫
学生部より	⑬
就職部より	⑭



後援会会長 挨拶

村 松 巖

株式会社七十七銀行代表取締役頭取、同銀行代表取締役会長、社団法人全国地方銀行協会副会長などを歴任。現在、仙台商工会議所会頭、日本商工会議所副会頭、東北六県商工会議所連合会会長、東北経済連合会副会長、株式会社七十七銀行相談役などを務める。

街路樹の葉も色づき、いよいよ秋本番を迎えました。在学生のご父母の皆様方には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は、本後援会の活動に対しまして、格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、今年も東北学院大学後援会総会と地区後援会を開催し、多くのご父母の皆様にご出席いただきました。

後援会総会は、去る5月24日(土)に泉キャンパスを会場とし、約1,500名のご父母が集い、賑やかに開催されました。「平成15年度庶務報告」「平成15年度収支決算報告」「平成16年度事業計画(案)」「平成16年度収支予算(案)」などをご審議いただき、お陰様を持ちまして原案どおり承認されました。また、同時に開催されました大学開放プログラムにも多数のご参加をいただきました。特に、「本学教員による公開講座」や「パイプオルガンコンサート」は、会場が一杯になり、ご父母の関心の高さに驚かされました。「学科・専攻別懇談会」と「個別相談コーナー」では、大学開放プログラムの終了時間ぎりぎりまで熱心に参加されており、“大学と家庭をむすぶ”役割を垣間見ることができました。

地区後援会は、去る7月17日(土)から9月11日(土)の主に週末を中心に、北は北海道旭川市から、南は静岡県浜松市までの全32地区で開催し、総勢1,300名余りのご父母の皆様にご出

席いただきました。総会と同様に開催した「本学教員による公開講座」では、身近なテーマでお話しをさせていただき、大変好評をいただきました。また、全体会終了後の個別面談では、ご子女の就職問題や修学状況について、大学から派遣された教職員と直接ご相談いただきました。近年の厳しい経済状況の中、また、親元を離れて学生生活を送るご子女には何かとご心配でしようが、地区後援会に出席されたご父母の皆様方の悩みや不安の解消に少しはお役に立てたのではないかと考えております。

ご承知のとおり、東北学院大学後援会は、在学生のご父母の皆様を会員として、ご子女の円滑な学生生活と大学の充実・発展に寄与するため昭和24(1949)年に設立されました。設立されてから前半世紀以上が過ぎますが、これからも“大学と家庭をむすぶ”をモットーに、各種事業を展開してまいります。是非、会員の皆様方には、今後とも後援会活動に積極的にご参加いただき、さらなるご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

後援会役員・顧問・参与・事務局長・事務局長名簿 平成16年6月1日現在

会 長	村 松 巖	(仙 台 市)
副 会 長	江 馬 成 夫	〃
	三 島 卓 郎	〃
庶務担当理事	後 藤 久 幸	〃
会計担当理事	高 橋 祥 允	〃
理 事	浅 野 ひとみ	〃
	阿 見 孝 雄	〃

理 事	壺 岐 洋 治	(仙 台 市)
	伊 東 知 男	〃
	寒 河 江 満 子	〃
	佐 久 間 敬 子	〃
	高 橋 俊 宏	〃
	平 野 貞 夫	〃
	堀 田 正 昭	〃
	柴 田 仁 市 郎	(塩 釜 市)
	門 関 英 一	(多 賀 城 市)
	古 脇 利 勝	(石 巻 市)
	坂 本 憲 一	(気 仙 沼 市)

理 事	桂 久	(札 幌 市)
	成 田 智 典	(青 森 市)
	高 橋 秀 彦	(秋 田 市)
	深 澤 禎 彦	(横 手 市)
	工 藤 敏 納	(盛 岡 市)
	大 友 敏 男	(宮 古 市)
	及 川 和 夫	(北 上 市)
	浦 島 康 弘	(大 船 渡 市)
	笹 島 敬 史	(新 庄 市)
	佐 野 清 人	(山 形 市)
	只 野 裕 一	(相 馬 市)



学長 挨拶

星 宮 望

東北学院中学・高等学校卒業。東北大学大学院工学研究科電子工学専攻博士課程修了。工学博士。北海道大学教授、東北大学教授、東北大学副総長などを歴任し、平成16年3月東北大学を定年退官、同年4月より東北学院大学長に就任。東北大学名誉教授。専門は生体電子工学。

平成16年4月に学長に就任して約半年になります。新しい環境での仕事に戸惑いを感じつつも、多くの教職員の方々のご協力を得てつつがなく仕事に奉仕できることに感謝しております。この後援会は、在学生諸君の日々の学習や生活環境の向上などに寄与するべく、昭和24年から活動されていると伺っております。これまでも多くの課外活動グループにおける諸活動にご支援をいただくなど、正課の授業には現れない多面的な人材育成のプログラムに大きな貢献をさせていただいており、心から感謝申し上げます。

最近、国際的に工学倫理の方面で反省が行われていることの一例を参考にしつつ、本来あるべき人材育成について考えてみたいと思います。

1986年1月に起きた米国NASAのチャレンジャー号の悲劇的な爆発事故は、「工学倫理」の具体例を学ぶ上での最も有名な例として広く知られています。当時、担当技術者のなかには、打ち上げを前にしたチャレンジャー号の固体ロケットブースターに用いられているOリングに問題があることに懸念を抱いておりました。Oリングの温度特性から、当日の予想された低い大気温度では高圧ガスの漏洩が予測されたために、それに気がついた技術者たちが、「最悪の場合、事故が起こる可能性がある」と打ち上げの中止を提言していました。しかし、最終的には、

NASAと契約していた当該会社の責任者は、せっかくの技術者の専門性と良心に裏づけられた「打ち上げ中止」の提言を無視することとなりました。そして、多数のTV視聴者の(特に、全米の高校教師から選抜された宇宙飛行士を見ようとしていた全米の高校生)見ているところで、発射後73秒で大爆発を起こし、7人の宇宙飛行士の命が奪われてしまいました。これは工学倫理を考える上で重要なヒントを与えてくれる有名な逸話です。しかしこの事故には工学分野に限らず、広い分野における人としての在り方にもかかわっていることが含まれていると思います。このような状況に接したときに、人間としてどのように対処するべきでしょうか？わが東北学院大学において学んだ学生諸君であれば、このような重大な判断を求められたときにどのように対処するのでしょうか？東北学院大学では聖書の教えに基づき、人間の尊厳と基本的人権を大切にすることを柱として、「地の塩、世の光」をキーワードに、「人類社会に貢献する人材の輩出」を念頭においた教育を実施しております。必ずや適切な対応をしてくれるものと信じております。

本学は、このように心のよりどころをしっかりと定めて、さらに専門知識・専門技術を身につけた人材の育成を心がけております。後援会の会員諸氏におかれましては、これらのことをご理解の上、今後ともご支援くださいますようお願い申し上げます。

理事	佐々木 信之 (福島市)	参 与	平河内 健治	参 与	高 橋 彌 穂	事務局員	今 野 靖
//	石 田 博基 (郡山市)	//	遠 藤 和朗	//	高 藤 惠子	//	桔 梗 元子
//	福 井 浩夫 (新潟市)	//	齋 藤 誠武	事務局員	菅 野 健一	//	佐 藤 宗芳
監 事	天 江 皓一 (仙台市)	//	鹿 又 俊三	事務局員	高 橋 嘉男	//	小 野 寺 芳典
//	伊 東 幸三	//	佐々木 俊三	//	高 橋 義光	//	石 上 貴繁
//	白 木 進	//	佐々木 哲夫	//	井 上 捷二		
顧 問	赤 澤 昭三	//	高 橋 征士	//	佐々木 文彦		
//	倉 松 功	//	高 橋 克己	//	鈴 木 孝郎		
//	星 宮 望	//	小 田 三千子	//	佐 藤 光		
参 与	関 谷 登	//	林 伸太郎	//	関		
//	大 塚 浩司	//	樋 渡 滋				

平成16年度東北学院大学後援会総会報告

次 第

日 時：平成16年5月22日(土)10時40分

場 所：東北学院大学泉キャンパス礼拝堂

司 会：後援会事務局長 菅野 健

1.開会宣言

2.聖書朗読並びに祈祷

3.挨拶

4.議事

- (1)平成15年度後援会庶務報告について
- (2)平成15年度後援会収支決算報告について
- (3)会計監査報告について
- (4)東北学院大学後援会規約の改正について
- (5)東北学院大学後援会会長の選任について
- (6)平成16年度後援会事業計画(案)について
- (7)平成16年度後援会収支予算(案)について
- (8)その他

5.閉会宣言



宗 教 部 長 佐々木 哲 夫
会 長 村 松 巖
学 長 星 宮 望

庶 務 担 当 理 事 後 藤 久 幸
会 計 担 当 理 事 高 橋 祥 允
監 事 天 江 皓 一
事 務 局 長 菅 野 健
副 会 長 江 馬 成 夫
庶 務 担 当 理 事 後 藤 久 幸
会 計 担 当 理 事 高 橋 祥 允

◇学務部・学生部・就職部からの説明

- (1)学務部より…教務課長 佐々木文彦 (2)学生部より…学生課長 今野 靖 (3)就職部より…就職課長 桔梗 元子

新緑まぶしい泉キャンパスに、約1,500名のご父母をお迎えし、平成16年度の後援会総会並びに大学開放プログラムを開催いたしました。総会で審議されました内容は次のとおりです。

(1)平成15年度後援会庶務報告について

・後藤久幸庶務担当理事より、役員人事、平成15年度役員会、平成15年度後援会総会及び大学開放プログラム、平成15年度地区後援会実施状況、文化講演会2003について報告があり、原案通り承認された。

(2)平成15年度後援会収支決算報告について(本誌4ページ参照)

・高橋祥允会計担当理事より報告があり、原案通り承認された。

(3)会計監査報告について(本誌4ページ参照)

・天江皓一監事より帳簿等が正確に整備されていることについて報告がなされた。

(4)東北学院大学後援会規約の改正について

・菅野健事務局長より説明があり、原案通り承認された。

(5)東北学院大学後援会会長の選任について

・江馬成夫副会長より村松巖会長の再任の提案があり、承認された。

(6)平成16年度後援会事業計画(案)について

・後藤久幸庶務担当理事より、平成16年度後援会総会、平成16年度地区後援会について説明があり、原案通り承認された。

(7)平成16年度後援会収支予算(案)について(本誌5ページ参照)

・高橋祥允会計担当理事より説明があり、原案通り承認された。

(8)その他

・会員より、大学で実施される健康診断結果の父母への通知の要望があり、樋渡滋学生部長より、個人情報保護を踏まえながら今後検討していくという回答がなされた。

・会員より、在籍学生数の約3%にも上る退学者への対応についての要望があり、村松巖会長より、今後大学側と相談したいという回答がなされた。また、星宮望学長より、各学部長へのヒアリングの実施により、改善策を検討していくという回答がなされた。

・会員より、大学における環境対策やそれにかかわるISOの取得への検討の要望があり、関谷登総務担当副学長より、現在行っている環境改善をさらに推進していくという回答がなされた。

平成15年度 東北学院大学後援会収支決算書

収入の部

2004年3月31日(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	予算との差異	備 考
前年度繰越金	29,991,703	29,991,703	0	
後援会費	199,804,000	199,388,000	△ 416,000	12,503名 (12,520名)
大学院	3,040,000	3,024,000	△ 16,000	189名 (190名)
文学部	42,144,000	42,048,000	△ 96,000	2,628名 (2,634名)
経済学部	78,624,000	78,000,000	△ 624,000	4,875名 (4,914名)
法学部	26,528,000	26,560,000	32,000	1,660名 (1,658名)
工学部	32,512,000	32,448,000	△ 64,000	2,028名 (2,032名)
教養学部	16,096,000	16,208,000	112,000	1,013名 (1,006名)
文学部二部	100,000	120,000	20,000	12名 (10名)
経済学部二部	760,000	980,000	220,000	98名 (76名)
雑収入	20,000	15,215	△ 4,785	
合 計	229,815,703	229,394,918	△ 420,785	

(△印は収入減)

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	予算との差異	備 考
体育文化費	143,952,000	145,075,548	1,123,548	各部活動費・大会参加費・合宿費等補助
学生会関係補助	18,000,000	15,213,278	△ 2,786,722	
体育会関係補助	63,500,000	70,108,787	6,608,787	
文化会関係補助	3,030,000	3,725,952	695,952	
夜間活動団体関係補助	4,590,000	3,747,616	△ 842,384	
工学部学生会補助	7,500,000	5,899,417	△ 1,600,583	
大学院学生関係補助	3,040,000	3,024,000	△ 16,000	
学生活動指導費	1,570,000	1,415,000	△ 155,000	
大会・合宿等付添補助	16,330,000	18,111,720	1,781,720	
特別強化補助費	18,000,000	17,990,603	△ 9,397	体育選手・文化活動特別強化補助費
雑 費	8,392,000	5,839,175	△ 2,552,825	懸賞論文・優秀選手表彰 他
保健衛生助成費	1,000,000	1,000,000	0	保健室備付器具薬品代
奨学金助成費	18,000,000	18,000,000	0	奨学会奨学金等
緊急貸与奨学金助成費	2,500,000	2,500,000	0	家計急変による貸与奨学金
就職活動助成費	4,000,000	4,000,000	0	就職活動費
厚生費	1,500,000	0	△ 1,500,000	
時報助成費	13,000,000	13,000,000	0	時報印刷費、郵便料 他
総会費	35,000,000	37,074,343	2,074,343	総会費・地区後援会費等
雑 費	3,000,000	3,636,421	636,421	事務局費 他
予 備 費	7,863,703	0	△ 7,863,703	
		(△ 3,834,312)	(△ 3,834,312)	体育文化費(1,123,548)総会費(2,074,343)雑費(636,421)に充当
次年度繰越金	0	5,108,606	5,108,606	
合 計	229,815,703	229,394,918	△ 420,785	

(△印は支出減)

※予備費からの支出につきましては、毎年総会時に「やむを得ない支出」が発生した場合、支出することのご承認を得ております。

監査報告書

平成16年4月14日、本学会議室において、平成15年度東北学院大学後援会会計収支決算書並びに諸帳簿・証書類等監査をいたしましたところ総て正確に整備されておりますことをご報告いたします。

平成16年4月14日

東北学院大学後援会 監 事 伊 東 幸 三 印
 監 事 天 江 皓 一 印
 監 事 白 木 進 印

平成16年度 東北学院大学後援会収支予算書

収入の部

(単位:円)

科 目	前年度予算額	本年度予算額	前年度との対比	備 考
前年度繰越金	29,991,703	5,108,606	△ 24,883,097	
後援会費	199,804,000	194,722,000	△ 5,082,000	12,187名
大学院	3,040,000	3,248,000	208,000	203名
文学部	42,144,000	42,368,000	224,000	2,648名
経済学部	78,624,000	75,392,000	△ 3,232,000	4,712名
法学部	26,528,000	26,224,000	△ 304,000	1,639名
工学部	32,512,000	31,696,000	△ 816,000	1,981名
教養学部	16,096,000	15,344,000	△ 752,000	959名
文学部二部	100,000	30,000	△ 70,000	3名
経済学部二部	760,000	420,000	△ 340,000	42名
雑収入	20,000	8,000	△ 12,000	預金利息
合 計	229,815,703	199,838,606	△ 29,977,097	

(△印は収入減)

支出の部

科 目	前年度予算額	本年度予算額	前年度との対比	備 考
体育文化費	143,952,000	115,500,000	△ 28,452,000	各部活動費・大会参加費・合宿費等補助
学生会関係補助	18,000,000	11,500,000	△ 6,500,000	
体育会関係補助	63,500,000	54,000,000	△ 9,500,000	
文化会関係補助	3,030,000	6,500,000	3,470,000	
夜間活動団体関係補助	4,590,000	3,500,000	△ 1,090,000	
工学部学生会補助	7,500,000	5,000,000	△ 2,500,000	
大学院学生関係補助	3,040,000	3,248,000	208,000	
学生活動指導費	1,570,000	1,350,000	△ 220,000	
大会・合宿等付添補助	16,330,000	14,000,000	△ 2,330,000	
特別強化補助費	18,000,000	13,000,000	△ 5,000,000	体育選手・文化活動特別強化補助費
雑費	8,392,000	3,402,000	△ 4,990,000	懸賞論文・優秀選手表彰 他
保健衛生助成費	1,000,000	1,000,000	0	保健室備付器具薬品代
奨学金助成費	18,000,000	18,000,000	0	奨学会奨学金等
緊急貸与奨学金助成費	2,500,000	2,500,000	0	家計急変による貸与奨学金
就職活動助成費	4,000,000	4,000,000	0	就職活動費
厚生費	1,500,000	0	△ 1,500,000	科目変更(予備費へ)
時報助成費	13,000,000	13,000,000	0	時報印刷費、郵便料 他
総会費	35,000,000	30,000,000	△ 5,000,000	総会費・地区後援会費等
雑費	3,000,000	3,000,000	0	事務局費 他
予備費	7,863,703	12,838,606	4,974,903	厚生費より
合 計	229,815,703	199,838,606	△ 29,977,097	

(△印は支出減)

平成16年度 東北学院大学後援会事業報告並びに予定

平成16(2004)年

- 4月 5日(月) 入学式/後援会入会式(於:仙台市体育館)
- 4月 後援会通信「GROWTH(グロース)」
第4号発行
- 4月23日(金) 後援会役員会(於:東北学院同窓会館)
- 5月 「父母のための大学ガイド2004」発行
- 5月22日(土) 後援会総会(於:泉キャンパス)
- 7月17日(土) 地区後援会(山形・福島)
- 8月 5日(木) 地区後援会(水戸)
- 8月 6日(金) 地区後援会(会津若松・いわき・浜松)
- 8月 7日(土) 地区後援会(盛岡・新潟・相馬・東京)
- 8月20日(金) 地区後援会(大館)
- 8月21日(土) 地区後援会(秋田・郡山・八戸)
- 8月26日(木) 地区後援会(大船渡)
- 8月27日(金) 地区後援会(弘前・新庄・釜石)
- 8月28日(土) 地区後援会(青森・米沢・宮古)
- 9月 2日(木) 地区後援会(函館)
- 9月 3日(金) 地区後援会(旭川・北上)
- 9月 4日(土) 地区後援会(札幌・横手)
- 9月10日(金) 地区後援会(一関・鶴岡・高崎)

- 9月11日(土) 地区後援会(気仙沼・酒田・宇都宮)
- 10月16日(土) ホームcomingデー(第5回同窓祭)
(於:土樋キャンパス)
- 10月 後援会通信「GROWTH(グロース)」
第5号発行
- 11月27日(土) 【東北学院大学文化講演会 2004】
(於:ホテルメトロポリタン盛岡)
- 12月 3日(金) 後援会役員会(於:東北学院同窓会館)

平成17(2005)年

- 3月24日(木) 【卒業式】
- 3月25日(金) 文化活動特別強化補助金並びに体育選手特別強化補助金交付式(於:土樋キャンパス)

※【 】内は大学主催の主な行事。予定は変更になる場合もあります。

COLUMN 「WIND」

「東北学院大学文化講演会2004」開催のご案内

東北学院大学は、東北地域最大の総合私立大学の使命として、地域社会と連携を深めながら、社会人の教養を高め、併せて文化の向上に資していくために、学外の講師を招いての「東北学院大学文化講演会」を開催しています。今年度は、岩手県盛岡市を会場に、下記のとおり開催いたします。多数の皆さまのお申し込みをお待ちいたしております。

記

- 日 時:平成16年11月27日(土)14時～16時
- 会 場:ホテルメトロポリタン盛岡・本館(4階)「岩手姫神」
〒020-0034 岩手県盛岡市盛岡駅前通1-44
TEL.019-625-1211
- 講 師:中村靖彦氏(農政ジャーナリスト、元NHK解説委員)
- 演 題:「食の安全 何が問われているのか」
- 対 象:どなたでもご参加いただけます。
- 定 員:先着400名
- 入 場 料:無料
- 申込方法:はがき・ファックス・E-mailのいずれかで、住所・氏名・電話番号・参加人数を添えてお申し込みください。先着順で400名様にて「入場券」を送付いたします。なお、申込人数は、お一人様4人までとさせていただきます。
- 申し込み先・問い合わせ先
東北学院大学総務部調査企画課
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1
TEL.022-264-6424 / FAX.022-264-6364
E-mail c.kikaku@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

後援会会員からのご意見

後援会総会並びに地区後援会の際にお願いしたアンケートの一部をご紹介します。東北学院大学及び本後援会に対し、ご父母の皆さまから貴重なご意見・ご要望が寄せられました。

すべてご紹介できませんが、寄せられたご意見・ご要望をもとに、本後援会の活動をより一層充実していきたいと考えております。引き続き、会員のご父母の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

後援会総会

- 息子がどのような所で大学生活を送っているのかを知る、いい機会だと思います。(法律1年)
- 各地から保護者が集まってくるので、公開講座の内容はさらに興味深いものがほしい。(英文1年)
- パイプオルガン演奏を聴く機会というのはなかなかないので大変うれしく思いました。(経済1年)
- 健康診断について総会で質問をした人がいましたが、ぜひ親にその結果を教えてもらいたいと思います。子供にできるのは健康へのことぐらいですので。(英文3年)
- 構内が広すぎて迷うので、案内するスタッフを多くしてほしい。(経済1年)
- 先生に懇切丁寧なアドバイスをいただくことができ、進むべき目標がわかり、本当に感謝しています。(物理情報3年)
- 年に一度だけでなく、総会ではないにしても、何か工夫して年に2、3回集まる機会が父母にあってもよい。(史4年)
- 単位について説明を聞くことができ安心しました。一年一年を大切に、見守っていくよう教え励まされました。(教養2年)
- 経済学部不動産に関する学科を設けてもいいのではないのでしょうか。(経営1年)
- 大学としての風格、ゆるぎない教育方針、学生に対するきめ細かな指導など、申し分ないものと思っています。(経済2年)
- 子供が入学したばかりで、分らない事ばかりなので、「後援会通信」があるととても助かります。これからも大学内外の情報を教えていただきたいと思います。(経営1年)

地区後援会

- 本人・父母の、身近な悩み・不安などを気軽に相談できる時間を多く設けていただきたい。(土木4年)
- 大学紹介ビデオでは、学生たちのいきいきとしている姿を見て安心しました。大学の中の施設も理解できてよかったと思います。(経営夜1年)
- 昨年は参加できず残念に思っていたので、今年は講座も聞くことができ、うれしく思います。子供にも大学の様子を伝え、残りの生活の励みにしてもらいたいと思っています。(電気情報3年)
- 出席者の名簿があればよかった。(物理情報1年)
- 親にとって子供の単位取得が一番の関心事です。できるならば、前期試験の結果がわかってから後援会に参加したいものです。(経済2年)
- 質問に対し丁寧に説明いただきありがとうございます。車で会場に来るため、駐車券を発行していただけたらありがたいと思います。(経済2年)
- 学部により泉キャンパスから土樋キャンパスに移る際、アパートを変えたりする場合もあるので、その方面のアドバイスや説明があってもよいかと思います。(経営3年)
- 大学のホームページに、いつも新しい情報を入れてほしい。内容を充実してほしい。(英文4年ほか)
- 授業料の値上げなどがあれば、早めに告知してほしい。(経済1年)
- 大学の第三者評価の結果を聞きたかった。(英文1年)
- 就職活動がかなり早くから行われることに驚きました。(人間科学1年)
- 大変誠意のある大学でよかったと思っています。すべて本人にしっかりしてほしいのですが、サポートもよろしくお願ひしたいと思っています。(経営3年)

「オープンキャンパス2004」を開催

去る8月3日(火)に、オープンキャンパスが開催されました。会場となった泉キャンパスと多賀城キャンパスには、4,500名を超える高校生や一般の方が訪れ、キャンパスを自由に見学し、模擬授業に参加するなど、“大学生”を体験しました。来春、参加された方々の多くが、東北学院大学の扉をくぐってくれることを願っております。



泉キャンパス

「成績発表」9月13日に行われる

今年度の前期試験の成績発表が、9月13日に一斉に行われました。夏休みを終えての友人との再会と成績発表が重なり、キャンパスは一気に賑わいを取り戻しました。なお、学生本人と保証人の連名で成績の郵送を申し込まれている方には、10月に「成績通知書」を郵送いたします。郵送手続きのお問い合わせは、学務部教務課(TEL.022-264-6475)までお願いいたします。

「ACUCA」(アジアキリスト教大学連盟)の紹介と加盟報告

(東北学院大学広報誌「OYPAHOΣ(ウーラノス)」第17号より転載)

東北学院大学は、2003年12月に「ACUCA (Association of Christian Universities and Colleges in Asia)」に加入しました。この組織は、キリスト教に基づく各大学の特質を高等教育の実践にどのように具体化させるかとの課題に、アジア文化を共有する大学の相互研鑽によって取り組もうとして1976年に創設されました。日本のメンバーは、青山学院大学、同志社大学、国際基督教大学、関西学院大学、明治学院大学、南山大学、桜美林大学、桃山学院大学、聖学院大学です。延世大学や梨花女子大学など韓国の大学や、香港、インドネシア、フィリピン、台湾、タイのキリスト教大学を合わせると総数45大学です。

ACUCAは、国際会議やセミナーの企画、機関紙『ACUCA NEWS』や研究誌『QUEST』の発行など活発な活動を展開しています。例えば、2002年にセミナー「アジアにおけるサービス・ラーニング・ネットワークと高等教育におけるカリキュラムの創設」を国際基督教大学で開催しました。この時の成果が、山本和(国際基督教大学サービス・ラーニング・センター長)「国際サービス・ラーニングの取り組み」『大学時報』(日本私立大学連盟、296号、2004年5月)に掲載されています。ちなみに「サービス・ラーニング」とは「学生たちの自発的な意志に基づいて、一定期間、社会奉仕活動(サービス活動)を体験することによって、それまで教室で知識として学んできたことを実際のサービス体験に応用し、また、体験から生きた知識を学ぶ新しい教育プログラムである。学生は、国内外のサービス活動を行う団体でかなりの期間にわたり奉仕活動を行い、その経験から学ぶことをまとめて発表し、レポートを作成することによって単位を認定される」と紹介されています。このような相互協力による新鮮な教育的刺激を与えてくれる組織です。



Campus Sketch

キャンパス・スケッチ

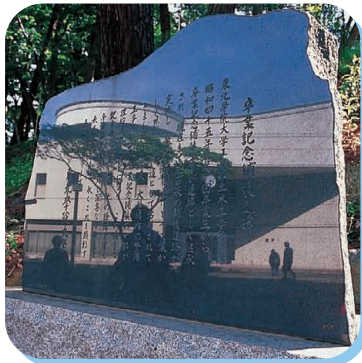


土 樋
Tsuchitoi



泉
Izumi

東北学院大学には、仙台市中心部の広瀬川を背にした土樋キャンパス、史跡の町多賀城市にある多賀城キャンパス、仙台市北部の丘陵地にある泉キャンパスの3つのキャンパスがあります。それぞれに個性あふれる雰囲気を持つキャンパスの様子を、写真を通して皆さまにお伝えいたします。



***** 学生インタビュー *****

キリスト教文化の持つグローバルな価値の伝達、それを基礎とした人間形成という本学の教育目標を胸に、学生たちはその瞬間を大切にしながら学生生活を送っています。3つのキャンパスから学生たちの声をお届けいたします。



秋のリーグ戦で活躍中!

法律学科 4年 (仙台育英学園高校出身)
星 孝 典 さん

硬式野球部で、1年の春から捕手として仙台6大学野球リーグ戦に出ています。野球は団体スポーツながら、ピッチャー対バッターの個人種目のような対決の面白さもあるし、勝ちたいという気持ちは一つでも意識や練習方法は人それぞれであることも知りました。野球を通じて友だちの幅も広がるし、6月に東京であった全日本候補者合宿では、関東や関西の学生たちの何事にも積極的な姿勢がかなり刺激になりました。

今ちょうど秋のリーグ戦で、6試合終わって全部勝ち進んでいます。東北福祉大戦では毎年、気合いが入りますね。卒業後も野球を続ける方向でしっかり考えたいと思っています。

人間科学だけでも、さらに教育学・体育学・社会学・心理学…と幅広く分かれ、欲張りな私にはとてもいい学科でした。1年からいろんな授業を取って見て、結果、私は社会学。今、社会で問題になっていること、ゼミの遠藤先生は家族論が中心ですけど、女性の社会の中での地位・社会進出している割には専業主婦を望む女性が多い現実や、パラサイトシングルとか、その背景などを一つひとつ追いかけているうちに面白くなってきて。社会調査実習では、「教育とジェンダー」についてアンケート調査をしました。ものすごい人気で、抽選までして取った実習でしたが、2年かけての調査や分析など、達成感は大いなものがありました。



社会学にハマってます

教養学科人間科学専攻 3年
川 崎 美 穂 さん
(山形県酒田西高校出身)



モノ創りの喜びを実感

経済学科 2年
奥 山 優 紀 さん
(宮城県富谷高校出身)

教員免許(社会科)を取ろうと思って、教職の授業を受けているのですが、とても面白いですね。「教育方法」という授業では、3人1組で、第二次世界大戦を解説するテキストを作り上げるというこれまでにない体験をしました。簡単な作りとはいえ、その過程ではいろんな段階を踏まねばならず、小学校の授業のビデオを見て、現場の先生の教え方の違いや子どもたちの反応に改めて驚いたり、共感したり。ひとつのモノを創り上げる授業は楽しいし、ためになります。

授業以外では、スポーツ新聞部に力を注いでいます。書くこと、感動を伝えることが好きで、スポーツ記者になりたいという想いが、近頃一層強くなってきています。



金属加工にやり甲斐充分

機械創成工学科 3年
吉 田 雅 一 さん (福島県平工業高校出身)

高校の担任の先生がこの工学部の卒業生で、その勧めもあって、入学することに。これからも金属加工の勉強をしようと思います。工場のラインのロボットのような、組み立て機械の設計に興味がありますね。工学部は実験やレポートの量も多いし、内容がしっかりしてないと返されるのでキツイですけど、その分やり甲斐はあります。レポートには、表計算やグラフ作成はつきものなので、パソコン操作でそういう技術は身に付いたと思います。ただ、親元へ帰る暇がなく、すみません。

今年はTOEICという英語検定を受けようと思っています。そろそろ就職を考える時期ですし、TOEICスコアを採用に考慮する企業が多いので、これからは必要だと考えています。



G R O W T H

学務部より

教育内容の改善のために

学務部長 高橋 克己

社会的・時代的变化に対応して、大学教育は一層の改善が求められています。今回は、本学の取り組みの一端を具体的に紹介してみます。

新入生の勉学意欲や学力などの観点から、高校から大学への導入教育の工夫がますます重要になっています。各学部・学科は相当工夫をして対応しています。例えば、経済学科では、「総合演習Ⅰ」を1年生の必修科目として設置し、受講態度、勉学意欲の向上を基本にして多様な指導に努めています。法律学科では、従来の法学・政治学への「基礎科目」の概念を一新し、3つの導入科目を構築して1年生の前期におき、3科目中2科目を選択必修としています。さらに、工学部では、勉学に対する姿勢、英語と国際性、専門分野の把握との関連での実験や観察の仕方、論文の読み方などを1年次から指導しています。また、英語(工学部は数学、物理学の工学基礎科目も含む)教育についても、入学時にプレースメントテストを行い、グレード別(習熟度別)の少人数教育を行い、効果をあげています。

全学部の学生のために、シラバス(「大学要覧」)を全学部・学科が作成・公表しています。講義の科目名、目的、概要など、学生が授業を履修する上で必要な要件を詳細に示したものです。

また、教員による教育方法・内容の向上を目的として、「学生による授業評価(学生による授業満足度調査)」を実施しています。その主な項目は、講義の分かりやすさ、講

義とシラバスの関係、黒板・ビデオ・OHPなどの使い方、学生の自己評価などです。

従来の教養学部は大幅に改組され、4学科になります。それとともに、既存の学科も種々の試みを行い、特色ある授業を本格的に推進しています。例えば、経済学科では、本年度は野村證券、宮城県庁、経済産業省など学外からの講師による授業を行っています。また、主に夏期休暇を利用して、企業での就業体験を行う「インターンシップ」も実施しています。経営学科では、3年生を対象にインターンシップ事業(「総合講座Ⅱ」)を行い、これを単位として認めています。このような試みは、すでに実施している工学部に加え、平成17年度から始まる新たな「歴史学科」などにおいても具体化されます。

就職に関連した授業の「教育課程」への導入も行われ、効果をあげています。資格試験指向が強い実情に配慮して、法律学科では、教養教育科目に「資格試験入門」をおき、好評を得ています。資格支援としてはTOEFL、TOEIC、英検での単位認定(経済学部)、それらの受験対策、情報処理技術者試験対策の指導(工学部)も行っています。また、全学部の学生を対象に、公務員試験や教員採用試験のための「対策講座」も実施しています。

G R O W T H

学生部より



対青山学院大学定期戦

学生部長 樋渡 滋

東北学院大学は、毎年二つの大学（青山学院大学と北海学園大学）と定期戦を行っています。これらは、本学体育会の総合定期戦として、団体戦の最も重要なイベントと位置づけられています。今回は、より古い歴史を持つ青山学院大学との定期戦についてお話します。

青山学院大学は、本学と同じようにキリスト教信仰に基づく教育を目指している大学で、本学より12年早く明治7(1874)年に創設された私立大学です。総合定期戦は、両校が新制大学として新しい出発をした翌年の昭和25(1950)年から始まりました。総合定期戦とは、一方の大学のすべての競技部が相手方に乗り込んで雌雄を決する定期戦のことを指しています。競技選手はもとより、応援団、チアリーダー、吹奏楽団、それに教職員を含めた多くの関係者が相手方に乗り込み、まさに全学を挙げた戦いになります。今年は、本学が青山学院大学に乗り込んでの第55回目の定期戦でした。猛暑の5月29日から31日の総合定期戦期間内に、野球、剣道、バレーボールなどの15種目の競技が行われ、期間前に行われたスキー、陸上の2競技と、期間後に行われるバスケットボール、柔道、水泳などの9競技、それにオープン競技としてゴルフとハイキングの合計28種目で戦われました。総合優勝を決めるのは、期間前と期間中に行われる競技の勝敗で、今年は15対15で拮抗しましたが、取り決めによって遠征校の勝ちとなり、本学が昨年に続いて2連覇を飾りました。しかし、これまでの対戦成績は、20勝35敗と本学が後

れを取っております。

また、青山学院大学とは二部（本学では夜間主と改称）交流定期戦も行われています。働きながら夜学に学ぶ学生にとっては、日頃の練習の成果を示す機会が少なく、交流定期戦は貴重なチャンスです。今年の第27回定期戦は、本学が青山学院大学を仙台に迎え撃ちました（8月2日）。競技種目は8種目と少ないのですが、両雄譲らず4対4の同点ながら、取り決めにより本学の遠征負けとなりました。過去の記録の欠如などもあります。こちらの定期戦も本学が大きな後れを取っているようです。

両校が総力を挙げて戦う定期戦は、競技レベルの向上をもたらすだけでなく、両校の交流を活発にして、お互いの友情と信頼の輪を広げ、ひいては学生の人格を涵養するものとして、ますます盛んになることを期待しています。

平成16年度下半期就職行事 予定表

※対象学年はほとんどが3年生ですが、1・2年生も参加できる行事もあります。
詳細は各キャンパスの就職掲示板でお知らせしています。

	就職活動ガイダンス		就職支援講演会		適性検査	公務員講座	その他就職
9月	第2回	具体的な就職活動について 自己分析の重要性と方法について	第3回	今年度の就職戦線		↑ 公務員 教養応用講座	
10月	第3回	業種・職種の研究の仕方について 業界・企業研究の具体的な方法について	第4回	女子学生の就職事情	パソコン講座 TOEIC説明会	公務員 専門応用講座 公務員 フォローアップ 講座	先輩体験談 インターンシップ 報告会
	第4回	就職情報誌サイト関係					
	第5回	資料請求(エントリー)の仕方について 自己PRと志望動機について エントリーシート・履歴書の書き方について 就職ノートの活用と情報の整理の仕方					
11月	第6回	就職登録について 就職活動のマナーについて			情報処理適性検査 エントリーシート攻略テスト 論文文講座 SPI模擬試験 2年生適性検査		
	第7回	求人票の見方 合同・企業セミナーの参加の心得 先輩・企業訪問の手順と心得					
		2年生ガイダンス					
12月			第5回	企業が求める人材	カレッジTOEIC 2年生適性検査結果説明会		業界研究講座
1月	第8回	就職登録 春休みの就職活動について 面接試験の傾向と対策 就職進路希望調査マークシート配付			エントリーシート攻略テスト		個人面談期間
2月	第9回	模擬面接			カレッジTOEIC		企業研究講座
3月						↑ ↓ 教育採用試験 対策講座	
4月	第10回	求人・就職登録について 現在の就職活動について 応募書類・推薦状などについて 就職進路希望調査マークシート回収				宮城県・仙台市等 地方自治体説明会 国家公務員説明会 警察官説明会 公務員模擬試験	
5月	第11回	就職戦線の現状について 今後の就職活動の進め方(面接のポイント)					

※上記の就職部各行事については、キャンパスによって若干の日程とタイトルが異なる場合もあります。その都度掲示板等でお知らせいたしますので注意してください。各行事とも学生の参加が第一に望まれます。ご父母の方々のお声かけをよろしくお願いたします。

※4年生の就職内定状況については、現時点では学生個々人の動向把握ができておりません。ただし、昨年度に比較すれば求人数が伸びておりますので、内定率も上回るだろうと予測されます。しかし、未内定で猛暑期間もめげずに就職活動を頑張っていた学生もおります。これからも求人はあります。最後の最後まで諦めず就職活動に希望を持ってください。各キャンパスの就職課・係の窓口をトドシご利用ください。皆で頑張りましょう!!

教育研究振興資金募集のお願い

学校法人東北学院では、平成16年4月1日から平成21年3月31日の期間、次の事業の完遂に向けて教育研究振興資金を募集しております。広く皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

【募金目標額20億円】

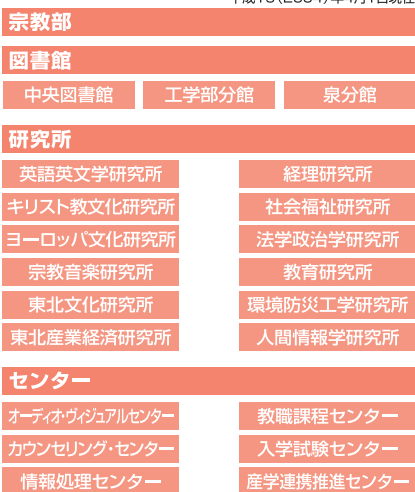
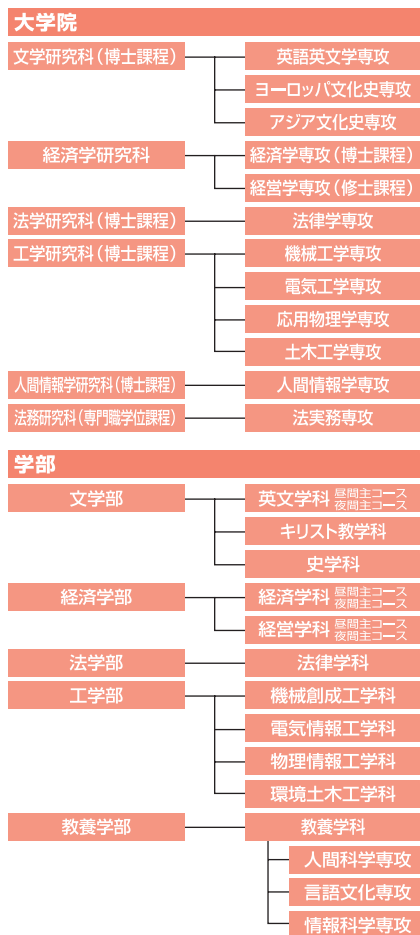
- 1.東北学院大学キャンパス整備
- 2.東北学院中学校高等学校校舎建設
- 3.東北学院榴ヶ岡高等学校体育館および管理棟建設
- 4.東北学院会館(仮称)建設
- 5.東北学院育英奨学基金の増額

詳しくは、
東北学院法人事務局財務部会計課まで
お問い合わせください。

〒980-8511
仙台市青葉区土樋1-3-1
TEL.022-264-6467
FAX.022-264-6510

ORGANIZATION 教学組織図

平成16(2004)年4月1日現在



東北学院大学

土樋キャンパス

大学院:文学研究科、経済学研究科、
法学研究科、法務研究科
学 部:文学部・経済学部・法学部(各3・4年)、
夜間主コース
〒980-8511仙台市青葉区土樋1-3-1
TEL.022-264-6421(総務課)
FAX.022-264-3030 //

多賀城キャンパス

大学院:工学研究科
学 部:工学部
〒985-8537多賀城市中央1-13-1
TEL.022-368-1116(総務課)
FAX.022-368-7070 //

泉キャンパス

大学院:人間情報学研究科
学 部:文学部・経済学部・法学部(各1・2年)、
教養学部
〒981-3193仙台市泉区天神沢2-1-1
TEL.022-375-1121(総務課)
FAX.022-375-4040 //

東北学院大学後援会通信 GROWTH(グロース) vol.5

本誌に関するご意見・ご要望をお待ちしております。
発行日は4月と10月です。

発行日 平成16(2004)年10月
編 集 東北学院大学後援会事務局
(総務部調査企画課内)
発 行 東北学院大学後援会
〒980-8511仙台市青葉区土樋1-3-1
TEL.022-264-6424
FAX.022-264-6364
E-mail kouenkai@staff.tohoku-gakuin.ac.jp
URL http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/
印 刷 ハリウコムニケーションズ株式会社